

第4回庄原市長期総合計画審議会（全体会議） 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成27年11月16日（月） 9:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎3階 防災対策室
3. 出席委員 上水流 久彦 会長 ・ 積山 豊通 委員 ・ 藤谷 善久 委員
石川 芳秀 委員 ・ 山内 文雄 委員 ・ 藤元 恵里子 委員
岡崎 輝子 委員 ・ 早井 千波 委員 ・ 住田 鉄也 委員
清光 康子 委員 ・ 東 泰治 委員 ・ 堀江 勝 委員
明賀 誠 委員 ・ 山岡 芳晴 委員 ・ 大阪 秋雄 委員
松長 百合子 委員 ・ 手島 亜希 委員
4. 欠席委員 秋山 愿 委員 ・ 片山 一平 委員 ・ 土井 幹雄 委員
毛利 昭生 委員 ・ 小林 護 委員 ・ 吉川 由基子 委員
吉岡 史郎 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫
企画課企画調整係長 加藤 武徳
企画課企画調整係 本郷 明宏
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 庄原市議会議員 赤木 忠徳 ・ 庄原市議会議員 近藤 久子
庄原市議会議員 吉方 明美 ・ 山陽新聞 南山 晴雅
中国新聞 山本 賢太郎
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第4回庄原市長長期総合計画審議会（全体会議） 次第

平成27年11月16日（月）9：00～
庄原市役所 本庁3階 防災対策室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

第2期庄原市長長期総合計画 審議会答申案について

- ・基本事項
- ・基本構想
- ・基本計画

4. その他

- ・答申予定日

11月24日（火）9：00～ 市長室

5. 閉会

会議経過

(1) 開会

(2) 会長挨拶

各分科会で検討したことを最終的にまとめて協議をしていく。住んでいる方々が目標を共有して一緒にやっていくことが大切だと思う。市役所だけでなく、市民もいいなと思える、賛同できる、計画にしていければと考えている。

(3) 議事

・第2期庄原市長期総合計画 答申案について

会 長：基本事項、基本構想、基本計画の3つにわけて議事を進めていく。

(基本事項について)

事務局：(資料により事務局説明)

会 長：全体会議の中でも、きちんと第1期計画を検証すべきとの意見から整理をいただいている。

委 員：文章の中に「」が多くあるが、強調しているのか？2、3頁などにあるように、文言なのか強調単語なのか基準がよくわからない。また、3頁の将来、未来といった言葉も統一をしたほうがいいのではないか？

5頁の「消費増税による消費の落ち込み」は断定しすぎではないか？

60頁の「～背骨として」は別の表現がいいのではないか？

事務局：「背骨」は第1期計画にある表現だが検討する。「」の使用についてルールはなく、思いもあるので、今ご指摘のあった部分については見直したい。未来と将来の使い分けについては、将来は10年後、未来は10年以上先といった使い分けをしているが、再確認して検討する。消費増税に関する記述も修正を検討する。

会 長：まちづくりなどは「」と“”が使用されており、意図があれば整理してほしい。第1期計画での目標数値は、現状数字を意識して設定していたのか？

事務局：特に基準は指示して設定していなかった。所管課で設定したものを審議会で承認いただいた形になる。低い指標は向上させるために、より高い数字を入れている。

委 員：法規文章であれば、「」の使い方のルールを定めていくべきだが、強調したいところで使用すればいいのではないか？

委 員：強調すべきところに違和感があり、要不要の整理が必要と思った。

会 長：私も「」をよく乱用するが、人による差があるので、事務局側で検討いただければと思う。数値の話はこれからの議論として、達成できる目標設定が必要と思うので、第1期における設定が気になった。

委 員：23頁以降の本市の姿の記述で、具体的なところと抽象的なところがあり、温度差があると感じている。公共交通においては、生活交通の利用者数減や便数減などにつながっている状況を具体的に記述してもらいたい。

26頁の医師・看護師に関する記述について、全国という表現は必要ないのではないか？27頁の福祉環境も事業所の開設だけでなく、ひとり暮らし高齢者、医療・介護が必要な者の増加問題等、地域包括ケアシステムについて詳細に記述すべきでないか？

35頁の人口目標に対する実績として、「届かず」ではなく、目標より5,000人「減少」という表現がいいように思う。39頁の財政部分の表現も実質厳しい点があるので、「改善」の表現は改めるべき。

事務局：財政状況の表現は、内部検討の上での表現である。市債残高については減少しており、その点では改善していると言える。改めて財政課と協議したい。

また、目標人口より減少したという表現はやや違うと思う。本市の姿の記述について、ご指摘いただいた部分は見直し、追加をしていく。福祉環境についても見直しを行うこととしたい。

会 長：福祉環境については、課題が見えないと思うので、現在、どのような問題を抱えているか記述等を加えてほしい。財政状況については、厳しい現状という記述がないので、追加してもらえればと思う。

(基本構想について)

事務局：(資料により事務局説明)

委員：環状道路網について、101 頁に対象路線が上がっているが、一般県道で記載されていない県道があるのは何か意味があるのか？県道を網羅したほうがいいのではないか？

事務局：ここに書いた県道を優先整備していくことではなく、環状となる道路の考え方を書いているもので、全県道を入れることは考えていない。

会長：ひとつの循環網をつかって、地域の活性化をイメージしてもらいたいと思う。

委員：85 頁の財政推計が最後まで出てこなかったが、将来像を決める中で、財源の裏づけは必要だと思う。ここの重要性は高いと思うので、非常に残念に思う。財政が減っていくことが記載されているが、減少するなかで一番大きいのは交付税だと見て取れる。市税収入が変わらない推計となっているが、これも減ってくると思う。財政推計をもっと検証してほしい。

91 頁の人口が 5,000 人減る目標はあまりにも低すぎると思う。市政収入や行政サービスがどの程度低下するのかといったイメージを出した上で議論すべきだった。かなり厳しいまちづくりになると思うので残念に思う。

92 頁の出生数は増やしていく必要があるが、産科が復活することでの影響を検証して設定していくべきである。

事務局：人口については、75・76 頁で過去の状況を示し、人口が減少したことで、どう影響するかを示している。必ずしも人口減少の影響で他の指標が増減するとは限らない。影響があるものはあると思うが、どこまでの数値になるかを示すことは難しい。

財政状況の推計を示していないのは申し訳ないと感じている。最終的には入れていきたいと考えている。

委員：数字がどうなると言えないのはわかるが、過去の状況からみると、厳しくなるのは間違いないので、危機感を共有するうえで、そうした数値を示す必要があると感じている。

会 長：確認だが、10年後の財政推計は最終的に入れるということでよいか？

事務局：時期によるが、最終的には入れたい。

委 員：財政の数字は、多くの市民が知らないのではないか？今後知らせていく必要がある。各地域の人材育成の面からも、住民へ実態を知らせていくことが重要だと思う。

会 長：将来の見通しの厳しさを、住民へ周知すべきとの意見があった。厳しい現状があるということを、周知する方法を事務局で工夫してほしい。

「里山共生都市」という形で、共生するということ、そこに行動指針として、市民一人ひとりがどうやって帆を真っ直ぐにしていくかといったアクションが考えられるものにした。

里山をうまく資源として活かしていくためにも、維持していくための仕組みを考え、市民と一緒に共有できるものを考えていきたいと思う。

基本構想はこれでよいか？

—全員合意—

(基本計画について)

事務局：(資料により事務局説明)

委 員：124頁の内容が全て中小企業になっているが、小規模事業者は枠組みが違う。今までは、中小企業振興基本法でひとくくりとなっていたが、新たに小規模事業者振興基本法が制定され、枠組みが変わっている。庄原市の事業者構造では、小規模事業者に特化した施策に取り組んだほうがよい。そのため、小規模事業者に特化した記述を入れてもらいたい。

目標指標について、「現状値以上」との表現が見られるが、きちんと数字を載せたほうがよいように思う。

委 員：基本計画なので現状値以上ではなく、しっかり数字を出してほしい。141頁の高齢者の部分なども数値を出してほしい。

委 員：数値設定は難しいのではないか？老人クラブの登録、元気な高齢者の割合なども現状厳しい。

委員：介護認定率という言葉を出してほしい。元気な高齢者と抽象的に言うと誤解を招く。これからの介護をどうするかは非常に大きなテーマであり、介護認定率をいかに低くするかが県内でも課題となっている。県平均が 19%だが、庄原市はそれを越えている。介護認定率を下げるのが大きな目標になってくると思うので、数値で出してもらいたい。

会長：「現状値以上」という表現にした点について説明してもらいたい。

事務局：特に深い意味があるわけではないが、現状値は平成 26 年のことを言っている。数値が並ぶよりは簡素化したほうが良いと考え、このような表現としている。また、減少している指標については、現状値に留めることを意図して、現状維持としている。実数で表記が厳しいものについては、割合での表記に変更していきたい。累計数字で積み上がっていくものに関しては実数で表記するが、実際には人口、対象者が減っていく中で、実数だけを増やすのは難しいので、そのあたりの目標は割合で定めていきたい。

会長：現状値という表現は変更していただく。介護認定率の指摘も出たが、各専門部会で数値を見て出た意見があれば教えてほしい。

委員：目標指標の項目が今後の課題に即しているかが疑問である。147 頁の医療で、今一番大事なのは訪問看護、介護などの在宅にシフトしてサービスの充実を図っていくことだが、そういった視点での目標指標が不足しているように思う。課題にあった指標を精査してもらいたい。

委員：157 頁の文化財の保護の中に、民俗芸能の保存・継承とあるが、伝統文化をどのように解釈しているのか？伝統文化と言えば芸能、民俗、食文化等多岐に渡る。民俗芸能が文化財の登録にあるので記載されたと思うが、民俗芸能・伝統文化継承の項目を設ける必要があると思う。

委員：123 頁のあづま蔓、比婆牛の頭数は、実態からすると厳しい頭数ではないかと思う。現実を踏まえて設定してほしい。

152 頁で、学校の統廃合、適正配置を検討するとあるが、実際には検討するといった段階ではないと思う。保育所については、137 頁において保育所の適正配置に取り組み、施設の効率的な運営に努めますという表現がしてある。このような表現にした変更したほうがよいのではないか？

会 長：介護認定率、在宅福祉に関する指標設定が必要とあったがいかがか？

事務局：担当課で目標指標を設定しているが、押えられる数字でなければ設定することは難しい。介護認定の反対が元気な高齢者ということも考えられるが、認定者数で元気の尺度とすべきか疑問である。

委 員：介護認定ではなく、介護保険利用者以外を元気な高齢者にしたほうがよいのではないか？

委 員：10年後に検証するためには、介護認定率のほうが分かりやすいと思った。具体性のある数値にしたほうがよいと思っている。

会 長：介護保険の数値等は、意図もあるので事務局で持ち帰って検討してほしい。学校の部分で保育所の表現と同じレベルにしてほしいとのことだったが、どういったことか？効率的はいい意味にもとれるが、悪い意味で言えば合理化の意味も含まれている。小学校がなくなると、その地域が落ち込む原因にもなるので、ある程度の統廃合は視野に入れるが、効率的という意味では考えないという意図があると汲み取ったが、具体的にどういった表現に変えたらいいのか？

委 員：学校がなくなることによって、地域の活力が低下するといったことも考えられるが、誰のための統廃合かを考えるべきである。子どものためを考えると、複式学級で1学年数人、新入生もいないような学校でいいのかという思いがある。

会 長：大人数で勉強できないというデメリットがあるということ。学校はある程度的人数の中で人間関係を学び、教育においては複式学級ではなく、学年で習うことで教育の充実が図れるというご意見だと理解する。
小規模事業者については記述を加えてもらいたい。
伝統文化の表現については、食文化等も含むということか？

委 員：文化財保護のところに出てくるのは民族文化しかないもので、伝統文化ということでは包含するかといたらそうではない。これだけでは、これまでの文化、伝承されているものが足りないように思う。地域で子どもを守り、文化を継承していかなければならない。そこが今一番欠落している。民族文化に限らず固有の伝統文化をしっかり守っていく義務があると思う。

委員：156 頁の芸術・文化活動の推進が、②関係団体の育成・支援となっていて、次に文化教育となっているので、文化教育へ結びつける内容として整理してはどうか？

委員：固有の文化育成を出すべき。

委員：市内に美術館、博物館が無いのはさみしい。拠点づくりが必要と思う。

委員：長期計画を見ると教育がおろそかにされていると感じる。人づくり・教育を大事にすべき。

会長：新たに加わった家庭・地域の教育の力の向上という項目があるが、事務局側はどうか？

委員：元気な高齢者に係るが、高齢者の健康づくりの項目をスポーツとは別に設けるべきでないか？

会長：140 頁の壮年期からの健康づくり、146 頁の健康づくり活動への支援にある表現ではないのか？

委員：それでもいいが、具体的な表現があったほうがいいと思う。高齢者が安心して、健康で暮らせるまちが暮らしやすいまちとするならば、高齢者に対する健康づくりへの取り組みを行い、健康寿命を延ばすなど、具体性が必要であるように思う。市民1 スポーツなどを掲げるべきでないか？

会長：基本計画の後に実施計画があるので、その中で市民1 スポーツや美術館、日本の伝統文化の重視について、事務局に検討いただきたい。

委員：154 頁の生涯学習について、地域課題の解決にあたる人材の育成としては社会教育の充実が大事だと思う。161 頁の家庭教育の問題解決としても、各自治振興センターの中で社会教育を充実させることが必要だと思う。

地域課題、健康づくり、医療の問題の中で、地域包括ケアシステムをいかにして作り上げるかが重要である。子どもから高齢者まで、全ての住民へのサービスとして、包括ケアのシステムを作りあげていくことが、安心・安全をつくっていく唯一の方策ではないかと思う。

行政の職員に地域の実態をどう把握してもらおうか。例えば、文化協会が1

ヶ月に1回九日市を中心に展示会をしているが、その九日市の事業者は市外から来ており、職員が指導していくべきではないか？

43 頁に交流人口の記述等があり、観光客は増えているが、観光消費額は下がっている。その理由としては、土日に関業している店が少なく、食事ができず、お土産もないことが挙げられる。オープンガーデンで来る人は多いが、買物をする場所もない。そうしたことに対応できるよう、計画に反映してもらいたい。

会 長：最後のご意見は、商工会等民間企業が対応していることだと思うので、こちらでできることもあるが、業者に考えていただきたいこともある。

包括ケアシステムの件は、重要になってきている。市で福祉計画を作っているの、そちらでも反映されていくと思う。

154 頁の地域課題への対応の中で、学習機会の提供とあるが、その地域課題への解決力を醸成するためといった部分を、実施計画の中でしっかりしてほしいということであると思う。

委 員：160 頁の地域の教育力の向上で、自治振興区がやるにしても2種類くらいしか助成金が無くなっている。以前は教育委員会が交流館で実験費を払ってできていたときはあるが、今は委託料を出してお願いしてできるのか？

会 長：文化活動に関しては、教育委員会というご意見もあったが、160 頁の「地域理解を深める」のところで、地域理解には社会、地域の問題、仕組みを知ると同時に、地域で大事にしている地域の文化についても理解をしていこうということだと思う。

会 長：今回の計画の中では、市民の皆さんと厳しい現実を共有していくことが重要だと考えている。理念、将来像を含めてそういったことを踏まえ整理してもらいたい。

127 頁で「来訪者の満足度」の数値設定の意図が聞きたい。平成 32 年から平成 36 年の5年間で数値が上がらないのはどうしてか。満足度としては数値をもっと高めてもいいのではないか？

事務局：観光振興計画の中で決まったことであると思う。現在のアンケート結果の数値より高くといった意味だと思う。満足度 60%は高い数値だと思う。

会 長：132 頁の交通弱者の指標の割合が 3.0%以下でいいのか？

委員：129 頁の生活基盤の整備では、バスセンターの整備と J R の廃線などとの整合を考えるべきではないか？

会長：J R 西日本で効率化の方向性はある。生活交通に鉄道の文言を加えることを検討してもらいたい。数値に関しても事務局で検討してもらいたい。

委員：69 頁に「儲ける観光」との表現があるがいかがかと思う。

事務局：観光振興プロジェクトの方で掲げられており、計画の文言ではない。

委員：実施計画の作成時期はいつになるのか？

事務局：実施計画は、平成 28 年度からの 5 年間の計画で、年度末までの策定を予定している。

委員：実施計画に市民意見を反映する機会はあるのか？また、これらの進行管理はどうするのか。

事務局：実施計画は各年度の事業についてなので、市民のみなさんの意見を組んでいるもの、そうでないものがあるが、出来上がったものについてはそういった機会はない。各分野で計画を作るときにご意見をいただいている。

PDCA は中間・次期計画時などにあると思うが、それ以外はない。ただし、各事業の決算に合わせての評価はあると思う。

会長：行政と議会との関係の中で、議会活動を通じて要請や要望を出していくことだと思う。PDCA は 5 年単位ですべきと思う。情報公開と市民の動機づけというところで事務局には検討してほしい。

委員：実施計画について、10 年を振り返ってみると、広域なので地域課題がかなり違ってくる。一体的に事業が実施されることにより、末端の町村はどうなるのかと不安を感じている。自治振興区で意見が反映でき、地域課題を解決する仕組みがほしい。

会長：さまざまな意見が出たので、実施計画に踏み込んだものも含めて、事務局で対応してもらいたい。市民が感じている不安や問題をうまく吸収した形で実施できないのではとの懸念がある。

委員：これまでの会議で、企画課を通してでしか思いを伝えることが出来ていないので、全庁的な士気が上がっているかがわからない。今後は現場の意見を通じて庁内の士気をもっと上げてもらうことを検討してほしい。

会長：さまざまな意見が出たが、事務局と調整することをお願いしたい。

(4) その他

- ・今後のスケジュールについて
- ・事務局挨拶

(5) 閉会